

# 東日本大震災 10 年追悼礼拝

学校法人 東北学院

# 東日本大震災 10 年追悼礼拝 次第

日時：2021 年 3 月 11 日（木）14 時 30 分  
場所：東北学院大学多賀城キャンパス礼拝堂  
司式：宗教部長 野村 信  
奏楽：大学オルガニスト 今井 奈緒子

前	奏	H. フォン ヘルツオーゲンベルク 作曲 《受難》 op. 9 より 「われ揺らぐこと無きよう助けたまえ、主イエス・キリストよ」		
讃	美	歌	312 番	一 同
聖	書	朗	読	旧約聖書 詩編 第 90 篇 1～12 節
				宗教部長 野村 信
祈		禱		院長 大西 晴 樹
黙		禱		一 同
式		辞		理事長 原 田 善 教
追	悼	の	辞	名誉教授 遠 藤 銀 朗 理事 日 野 哲
頌		栄	544 番	一 同
後	奏	J. S. バッハ 作曲 《マタイ受難曲》 BWV244 より終曲 「憩いたまえ、安らかに」		

讚美歌 312 番

♪・88 い つくしみふ か き と もなる イエスは  
つ みとがう れい を とりさりた も う(46)  
こ ころの なげ き を つ つま ずの べ て  
な どか はお ろ さ ぬ お える おも に を アーメン

1  
いつくしみ深き 友なるイエスは、  
罪とが憂いを とり去りたもう。  
こころの嘆きを 包まず述べて、  
などかは下さぬ、 負える重荷を。

2  
いつくしみ深き 友なるイエスは、  
われらの弱きを 知りて憐む。  
悩みなしみに 沈めるときも、  
祈りにこたえて 慰めたまわん。

3  
いつくしみ深き 友なるイエスは、  
かわらぬ愛もて 導きたもう。  
世の友われらを 乗て去るときも、  
祈りにこたえて 労りたまわん。

旧約聖書 詩編 第90篇 1～12節

いの 祈り。神の<sup>かみ</sup>人<sup>ひと</sup>モーセの<sup>し</sup>詩。  
主よ、あなたは代々<sup>よ</sup>にわたしたちの<sup>やど</sup>宿るところ。  
山々が<sup>やま</sup>生まれる<sup>まえ</sup>前から  
大地が、人の世が、<sup>だい</sup>生み出される<sup>まえ</sup>前から  
世々と<sup>よ</sup>こしえに、あなたは<sup>かみ</sup>神。  
あなたは<sup>ひと</sup>人を<sup>かえ</sup>塵に<sup>かえ</sup>返し  
「人の子よ、<sup>かえ</sup>帰れ」と<sup>おほ</sup>仰せになります。  
千年<sup>ねん</sup>といえども<sup>おん</sup>御目には  
昨日<sup>きのう</sup>が今日<sup>けふ</sup>へと<sup>うつ</sup>移る<sup>よる</sup>夜の<sup>ひと</sup>一時<sup>とき</sup>に<sup>すぎ</sup>すぎません。  
あなたは<sup>ねむ</sup>眠り<sup>なか</sup>の中に<sup>ひと</sup>人を<sup>ただ</sup>漂<sup>よ</sup>わせ  
朝<sup>あさ</sup>が来れば、人は<sup>ひた</sup>草<sup>くさ</sup>のように<sup>うつ</sup>移ろいます。  
朝<sup>あさ</sup>が来れば<sup>はな</sup>花を<sup>さか</sup>咲かせ、<sup>やが</sup>やがて<sup>うつ</sup>移ろい  
夕べ<sup>ゆふ</sup>には<sup>い</sup>はしおれ、<sup>か</sup>枯れて<sup>い</sup>行きます。  
あなたの<sup>いか</sup>怒りに<sup>た</sup>わたしたちは<sup>た</sup>絶え入り  
あなたの<sup>い</sup>憤りに<sup>おそ</sup>恐れ<sup>おそ</sup>れます。

あなたはわたしたちの<sup>つみ</sup>罪を<sup>みま</sup>御前に<sup>え</sup>  
隠れた<sup>かく</sup>罪を<sup>つみ</sup>御顔<sup>みかお</sup>の<sup>ひかり</sup>光<sup>なか</sup>の中に<sup>お</sup>置かれます。  
わたしたちの<sup>しょうがい</sup>生涯<sup>みいか</sup>は<sup>き</sup>御怒りに<sup>き</sup>消え去り  
人生<sup>じんせい</sup>は<sup>いき</sup>ため息<sup>いき</sup>のように<sup>き</sup>消えうせます。  
人生<sup>じんせい</sup>の<sup>としつき</sup>年月<sup>ねんほど</sup>は<sup>い</sup>七十年<sup>なな</sup>程<sup>じゆ</sup>の<sup>もの</sup>ものです。  
健<sup>すこ</sup>やかな<sup>ひと</sup>人が<sup>ねん</sup>八十年<sup>はち</sup>を<sup>かぞ</sup>数えても  
得<sup>え</sup>るところは<sup>るうく</sup>労苦<sup>わづら</sup>と<sup>い</sup>災いに<sup>すぎ</sup>すぎません。  
瞬<sup>また</sup>く<sup>ま</sup>間に<sup>とき</sup>時は<sup>す</sup>過ぎ、<sup>た</sup>わたしたちは<sup>と</sup>飛び去ります。  
御怒り<sup>みいか</sup>の<sup>ちから</sup>力を<sup>だれ</sup>誰が<sup>し</sup>知りえましようか。  
あなたを<sup>おそ</sup>畏れ<sup>うやま</sup>敬<sup>ま</sup>うにつれて  
あなたの<sup>いきどお</sup>憤りを<sup>し</sup>も知る<sup>し</sup>ことでしょう。  
生涯<sup>しょうがい</sup>の<sup>ひ</sup>日を<sup>ただ</sup>正しく<sup>かぞ</sup>数える<sup>おし</sup>ように<sup>おし</sup>教えてください。  
知<sup>ち</sup>恵<sup>え</sup>ある<sup>こころ</sup>心を<sup>え</sup>得ることが<sup>え</sup>できますように。

頌 栄 544 番

♪・80 あまつみ-たみも ちにある-ものも ちちこみ-  
たまの-かみをた-え-よ-かみを た-たえよ アーメン

あまつみたみも、  
地にあるものも、  
父、子、みたまの  
かみをたたえよ。